

令和5年度南部町教育行政主要施策の点検・評価

教育方針・主要な施策	意見	質問等
<p>1. コミュニティ・スクールを基盤とする保・小中一貫教育を推進するとともに、地域と協働した「まち未来科」の学びを充実・発展させます。</p> <p>(1) 中学校区コミュニティ・スクールの推進</p> <p>(2) 保育園年長児からの「まち未来科」(10年プログラム)の実践と検証</p> <p>(3) 4者対話による学校づくり会議の実施</p> <p>(4) 「協同学習」の充実</p>	<p>○全国CS研究大会では、参加者からの高い評価を得ることができて長年の取り組みの成果が感じられた。がしかし、その実感が得られたのは一部の委員にとどまるのではないか。又、今後とも家庭や地域とどう協働すればよいのか課題は残る。</p> <p>○中学3年生の「まち未来科」の意見交換は、中学生の成長が感じられ、地域と交わるとても良い機会だった。</p> <p>○CS全国大会の成功とても良かったです。新たな再スタートのきっかけとなったと思います。特に新☆青年団や高校生サークルの発表はすばらしかった。町民への周知・理解が進んだと思います。</p> <p>○CEFR A1 レベル相当以上を達成する生徒(中3)の割合が国・県を上回ったのは取組の成果だと思います。今後もALTを活用したコミュニケーション能力を高める取組を続けていきたい。</p> <p>○子ども、保護者、教職員、地域の4者対話の実現を願います。</p> <p>○他の市町村と比べても、南部町のCSの取り組みは進んでいる印象です。PTAとしてもとても有難い存在と思っており、感謝しています。</p>	<p>○CSの基本がブレないため、また今後も家庭や地域とつながっていくために、何か研修か講演会が必要なのではないか。今後の予定は？</p> <p>⇒(事務局回答)</p> <p>・6月4日にCS研修会を開催しました。グループごとにテーマに沿って意見を出し合った後、短期・中期・長期別に行うことや目標を明らかにしたり、他グループの内容を取り入れたりするなど、熟議の方法を学びました。現在、この学びを生かした取組が各学校運営協議会や各校CS委員会で進められています。学校と家庭、地域がつながる熟議となるよう今後も必要な支援を行ってまいります。</p> <p>○地域のボランティアの発掘・組織化について具体案等はありませんか。</p> <p>⇒(事務局回答)</p> <p>・昨年度、南部町共同学校事務室が中心となりボランティア一覧を作成しました。それを、町の共有フォルダに保存することにより、いつでもだれでも見たり、加筆したりすることができるようにし、他校との交流のきっかけ、拡大につなげたいと考えています。</p> <p>○さくら基金とはどんなものですか。</p> <p>⇒(事務局回答)</p> <p>・南部町ふるさと納税(南部町がんばれふるさと基金)の通称が</p>

	<p>○中学校区ということは、旧西伯町と旧会見町 〈ソフト面〉 古くからの伝統・気質・地域性などを活かし伸ばす。 この2色は南部町色1色になったのだろうか？ 「南部町はこんな町！」が語れるだろうか。 2色のまま残っていくのもありかなと思います。 〈ハード面〉 施設のコミュニティ化をしませんか。 ・学校施設を市民開放できるスペースを作る。 例・・・図書館・フリースペース（交流広場） ・・・・プールを町民プールとして運営する。</p>	<p>「さくら基金」です。南部町では、これを活用して主に9の事業を実施しており、学校教育関係では「教育の推進と伝統文化の育成伝承事業」があり、令和5年度は「学校経営校長戦略事業」「教室黒板ホワイトボード化事業」「会見第二小学校創立150周年記念事業」に繰り入れられました。</p> <p>○近年、課題を抱えた児童生徒が増加し、学習支援員の存在や役割が益々重要になっています、現状の人数や対応で十分なのでしょうか。 ⇒（事務局回答）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童生徒へ直接、学習の支援を行う職員として、7名の学習支援員（小学校4・中学校3）と、令和5年度より新たに2名の特別支援教育支援員（小学校2）を配置しています。 ・学習支援員は、通常学級に在籍する児童生徒を対象に、学校・学級不適応児童生徒への対応や、発達障がい等の児童生徒への学びの支援を基本としています。 ・特別支援教育支援員は、小学校の特別支援学級への配置を原則とし、多様な発達段階や教育課程にきめ細やかに対応できるようにしています。 ・人材や財源に限りがあることから、県が配置する加配や非常勤講師等も効果的に活用しながら、必要な支援が子どもたちに届くように、今後も学校経営や教育課程を工夫してまいります。 <p>○全国CS研究大会（2023.12）<u>前後</u>の関係者の気運や意欲、取組姿勢はどのようなものだったか。 ⇒（事務局回答）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・町内のCS関係者のみならず、町を挙げて大会を成功させよう
--	---	---

		<p>と盛り上がりを見せました。大会後は、研究大会を契機にして町のCSを見直す動きが広がり、よりよい活動をしようとする機運が高まっています。</p> <p>○p.14「(実績)」における2・3番目の「○」について、委員会当日具体をお聞きしたい。</p> <p>⇒ (事務局回答)</p> <p>○小中連携や校区を超えた活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 中学校のあいさつ運動や給食コンテナ運びボランティアに小学校CS委員が参加したり、「まち未来会議」のアドバイザーとして校区を超えて参加したりしました。また、町の一斉公開日に全ての学校を訪れるCS委員がいるなど、視点に広がりが見られています。 <p>○組織の自立的な運営体制や組織外とのつながり</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 学校運営協議会やCS委員会の事務局(学校)の役割の一部を委員が分担して担うようになりつつあります。また、校区の保育園の活動に対する協力体制を整え、新たなつながりをもつ学校運営協議会もありました。 <p>○黒板からホワイトボードへ全面移行が完了したとのこと。その後、子どもたちや教職員からの評判はどうか(+撤去された大量の黒板・チョークはどうなったのか)。</p> <p>⇒ (事務局回答)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 子どもたちにとって黒板に比べ書きやすくなり、授業の質が高まっています。 ・ チョークによる汚れがなくなり使いやすくなったとともに、ICT機器の故障防止にもつながっています。
--	--	--

		<ul style="list-style-type: none"> ・視覚、聴覚特性に配慮した学習環境（ユニバーサルデザイン）の整備につながりました。 ・黒板の上からホワイトボードを張り付ける工法のため撤去した黒板はありません。工事までに1年弱あったため、チョークを計画的に購入・使用することができ、チョークの大量廃棄もありませんでした。 <p>○夏季休業中の小学校の図書館開放の利用者が少ないのはどうか（学校司書配置との費用対効果）。</p> <p>⇒（事務局回答）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・部活動で登校する機会がある中学校と比べ、小学校は登校自体がほぼないため利用が少なくなっています。利用が少なくても司書がいる図書館が開放されているという環境があることを大切に運営しています。 ・図書館開放の他に、蔵書点検、学級文庫の整理・入替等、次学期に向けた、長期休業ならではの重要な業務があります。 <p>○R4年度は英検3級以上生徒の割合が県平均を下回っていたが、どうして国や県を上回れたのか。</p> <p>⇒（事務局回答）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ペアで表現し合う活動やタブレット端末を活用して英文作成をするなど、表現力向上に取り組んだ成果と捉えています。 <p>○「1人1台」が定着し4年余りになるが、活用実態に変化はあるか。また、今後の機器の更新（保守等）はどのような計画か。</p> <p>⇒（事務局回答）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業でのタブレット端末の活用が日常的になってきました。
--	--	--

		<ul style="list-style-type: none"> ・更新については、国が基金を造成、県に交付し、県が進める共同調達に参加する形で、令和9年度に予定しています。 																		
<p>2. 子ども達が安心して学び、お互いに認め合い、高め合える保育・教育に取り組まします。</p> <p>(1) 不登校の未然防止、いじめ根絶に向けた取り組みの充実</p> <p>(2) 保・小中一貫した人間関係づくり学習の推進</p> <p>(3) 縦横のネットワークによる子ども支援体制づくり</p> <p>(4) 食育のビジョンづくりと実践</p>	<p>○不登校やいじめは年々増えており、日本社会においても問題になっている。とりわけいじめは時として生死に関わる深刻な問題で、人生に多大な影響を与えるもの、さらなる取り組みの充実をお願いしたい。</p> <p>○自分の体は自身が食べた物でできている。コンビニ食品やファーストフードが簡単に手にできる現在、食育はやはり大切だと思う。</p> <p>○感染症対策について、今後も感染拡大や流行が考えられることから、空気清浄機の導入は良かったと思います。</p> <p>○高校等通学定期助成事業について、年々申請数が減少しています。対象の高校生等の人数が減っているとしても、もっとPRしても良いのでは。</p> <p>○町内・県内産品の使用率が減少している。地域の食材提供者の数が減っているのは残念な状況です。地産・地消の取組や啓発などで安定した供給に努力してほしい。</p> <p>○会見小学校での保護者の給食体験試食会は大変有意義でした。保護者は現役世代でなかなか参加まならにですが、親子と一緒に給食を食するのはいい食育になるのではないかと思います。</p>	<p>○現在の遅刻や不登校の状況は？</p> <p>○不登校児童生徒の実数が増え（R4～R5で小+10、中+6）、出席率も全国・県と同様に増えている。この現状をどのように考えられていますか。また、中1ギャップや小1プロブレムはあるのでしょうか。</p> <p>○不登校児童生徒の出席率がR4年度と比べ高くなってしまっているが理由は何か（中学生の場合、小学校時代より不登校なのか/小学校時代に初めて不登校になるきっかけは何か）。</p> <p>⇒（事務局回答）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・数値に誤りがありましたので、下記の通り修正いたします。 <table border="1" data-bbox="1317 751 2107 1002"> <thead> <tr> <th colspan="2"></th> <th>誤</th> <th>正</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">小学校</td> <td>不登校児童</td> <td>18人</td> <td>15人</td> </tr> <tr> <td>町出現率（100人あたり）</td> <td>3.70</td> <td>3.10</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">中学校</td> <td>不登校生徒</td> <td>21人</td> <td>19人</td> </tr> <tr> <td>町出現率（100人あたり）</td> <td>8.30</td> <td>7.51</td> </tr> </tbody> </table> <ul style="list-style-type: none"> ・令和6年度1学期末時点で不登校は約20人、不登校以外で遅刻が目立つ等配慮を要する児童生徒が約10人います。 ・令和5年度の不登校は、令和元年度の中学校、令和2年度の小学校に続き、小中ともに2度目の急増となりました。コロナ禍の休みやすさ、あるいはコロナ明けのギャップ等が原因の1つとしてあるかと思いますが、主たるものではないと考えています。 			誤	正	小学校	不登校児童	18人	15人	町出現率（100人あたり）	3.70	3.10	中学校	不登校生徒	21人	19人	町出現率（100人あたり）	8.30	7.51
		誤	正																	
小学校	不登校児童	18人	15人																	
	町出現率（100人あたり）	3.70	3.10																	
中学校	不登校生徒	21人	19人																	
	町出現率（100人あたり）	8.30	7.51																	

○目指す学校像・・・「行きたい学校」「楽しい学校」

現実的に

- ・学校の学習・生活システムになじめない人
 - ・友だちとうまく関われない人
 - ・先生とうまく関われない人
- 〈学校のイメージを変える〉選択できる学校
- ・個別・個人学習の集合体が学校
 - ・通信制の学習スタイルの確立
 - ・学校施設以外の個人及び集合学習も認める

⇒「不登校」という言葉はなくなる

○部活の地域移行と子育て支援や移住促進は、今後より一層関連してくる取組だと思われる。

- ・小1プロブレム、中1ギャップについては、不登校児童生徒の状況から影響はほぼないと考えています。
- ・不登校の背景は、3分類に分けられると考えています。それらを背景に、不登校の理由は「不安」や、不安と人間関係、不安と無気力といった「複合」が多くなっています。理由の特定は難しいのが現状ですが、関係者がチームとなって様々な面から見立てを行い、対応しています。

○「第2期なんぶの食育プラン」とは？

⇒（事務局回答）

- ・食育基本法第18条第1項に基づき、令和2年度から11年度を対象に作成した南部町の食育推進計画です。（主管課：健康福祉課）「第2期なんぶの食育プラン」では、主に減塩推進と南部町の特色を活かした食育の取組を重点的な目標と定めています。
- ・これらに基づき、小中学校では、毎月17日の減塩の日に薄味だけどおいしい「おいしお給食」の提供や「おにぎり給食」、栄養教諭、学校栄養主任、町管理栄養士等による啓発、町内生産者との交流会等を実施しております。併せて、地場産物を活用した献立を作成し、地産地消を推進しています。

○両給食センターの施設設備の老朽化が進み修繕等が必要とあります。食の安全を考える大事なことです。統合を含めて新たなセンター建設計画等はあるのでしょうか。

⇒（事務局回答）

- ・今のところございません。

○部活動の地域移行の進捗状況はどうなっているか。また、「あり

		<p>方検討会」を年5回も開催され、提言をまとめられたようだが、どのようなメンバーでどのような協議を経て提言がまとめられたのか。</p> <p>⇒（事務局回答）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「南部町部活動あり方検討委員会」は、島根大学特任教授を委員長として、両中学校長のほか、CS会長、部活動指導員、PTA会長、スポnetなんぶ、金管指導者の各代表、公募委員1名計9名により構成し、部活動の現状や現役中学生との意見交流を踏まえながら協議し、令和8年度の「南部町型地域クラブ方式」への完全移行をめざした「南部町部活動の地域移行のあり方に関する提言」をまとめました。（別紙参照） ・令和6年度より配置したクラブコーディネーターが各種競技団体とヒアリングを重ねており、指導体制や活動場所、設備等について課題を整理し、調整等に向かっていくところです。 <p>○特別支援教育支援員と学習支援員の違いがよくわからない。</p> <p>⇒（事務局回答）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1の回答を参照ください。
<p>3. 0歳からの保育の質を高め、保育と学校教育のつながりを強化するとともに子どもが育つ地域環境の整備をすすめます。</p> <p>(1) 保育士研修の充実 (2) 園の経営マネジメン</p>	<p>○保から小、小から中へと、異なる文化の環境に進む際、子どもだけでなく親にも不安やギャップはある。保・小・中のつながりの強化はともより、家庭ともしっかりとつながって頂きたい。</p> <p>○保育の質の向上、保育士の不足等は重要な課題です。より一層の充実した対策を期待します。</p>	<p>○町内の保育園の統合計画があると聞きます。管轄外とは思いますが、現状はどうでしょうか。</p> <p>⇒（事務局回答）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子ども・子育て会議、行財政運営審議会を経て、南部町町立保育園統合に係る基本構想のもと、令和6年5月に公募型プロポーザル方式で設計業者が決定したところです。 <p>○子育て支援課と具体的にどういう連携を図っているかご教示く</p>

<p>トの確立</p> <p>(3) 研究保育の推進</p> <p>(4) 関連部局・機関との就学支援連携強化</p> <p>(5) 保小引き継ぎの充実</p>	<p>○小学校での学習支援、特別支援などにスムーズに対応するために、保小の就学支援の連携はしっかりと進めてほしい。</p> <p>○保育現場に「幼児リトミック」の導入を。</p>	<p>ださい。</p> <p>⇒（事務局回答）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・以下のことに、子育て支援課とともに取り組んでいます。 ・園長会(1回/月)での情報共有や協議 ・教育委員による園訪問(1回/年)での意見交換や協議 ・園経営や運営状況についての確認、情報共有（年度当初・毎月） ・就学に向け、LD巡回相談対象児や未就園児、病弱児の情報共有、観察 ・放課後児童クラブ、児童館における児童生徒の情報共有 ・要保護児童対策地域協議会における情報共有や協議
<p>4. 保・小中の連携を基盤としながら、地域や関連機関と協働した家庭教育の充実に取り組みます。</p> <p>(1) 子育てセミナーの充実</p> <p>(2) 親の学び・相談・仲間づくりとPTA活動の連携</p> <p>(3) アウトリーチ型個別支援の実施</p> <p>(4) 家庭や家族のあり方を考える場づくり</p> <p>(5) スクールソーシャル</p>	<p>○スクールソーシャルワーカーの働きや、スマイルサポートの動きは、地味に感じられる事もあるが、一人でも多くの子どもや家庭に寄りそうためにとても重要だと感じている。</p> <p>○乳幼児期の家庭教育の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ・・・「親子でリトミック」 <p>○小1プロブレム解消の一手</p> <ul style="list-style-type: none"> ・・・「0歳からの同窓会」 <p>※同学年親子でのリトミックで親も子も仲間づくり</p>	<p>○家庭の教育力の向上はとても重要だと思う。学びの場の促進として、子育てセミナーが実施されていますが、保護者の参加率はどの程度でしょうか。</p> <p>⇒（事務局回答）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・さくら保育園 8/45 家庭参加（全家庭対象） 「からだを育む足～靴選びのポイント～」 ・ひまわり保育園 8/35 家庭参加（全家庭対象） 「こんな子どもに育ててほしい～保護者としてできること～」 ・つくし保育園 7/68 家庭参加（全家庭対象） 「メディアに頼りすぎない」 ・すみれこども保育園 18/27 家庭参加（年長家庭のみ対象） 「メディアに頼りすぎない」 <p>【参加者の感想（一部抜粋）】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「自分自身の姿が子どもを育てる」という言葉は、特に心に刺さりました。

<p>ワーカーによる福祉との連携</p>		<ul style="list-style-type: none"> ・メディアが子どもに及ぼす影響についてよくわかり、頼りすぎない暮らし、子育ての必要性を強く感じました。 <p>○(2) P T A活動の連携について、具体的な取り組み内容をご教示お願いします。(P T Aの立場からみて、教育委員会とP T Aとの関連は、学校を介して間接的に…というイメージです)</p> <p>⇒ (事務局回答)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・P T A役員が、家庭教育支援チーム員として小学校の新入学家庭を戸別訪問するなど連携促進に努めています。 ・また、P T A役員が社会教育委員を務めたり、家庭教育推進員がC S委員を務めたりするなど、学校教育と社会教育との情報共有・連携体制の強化を図っています。
<p>5. 社会教育等関係施設を活用し、学び合い、つながり合う社会教育活動の充実に取り組みます。</p> <p>(1) 公民館活動の発信と地域への学びの成果の還元</p> <p>(2) 多様な世代への幅広い学習機会の提供ほか新たな学びの創造</p> <p>(3) 地域や団体と連携した図書館づくりの推進</p>	<p>○土曜日の教育支援として「はんどん学校」などに大人だけでなく、中高生のスタッフや支援ボランティア等の参加を要請し、多様な年代間のつながりがもてるようにしたらどうでしょうか。</p> <p>○西伯・天萬両図書館の運営について、蔵書や貸し出しだけでなく様々な企画を考え実施されている。図書館が町の活力の源になっていくことを願います。</p> <p>○中学校の部活動 地域移行</p> <p>体育関係 ⇒ スポ net</p> <p>文化関係 ⇒ 公民館</p>	<p>○法勝寺校区においては、法中・西伯小とキナルなんぶとが有効に連携されているイメージ（法中の生徒さんをキナルで見かけたりしますし）ですが、会見校区での小学校・中学校と町施設との連携はどれだけ進んでいるか、ご教示お願いします。</p> <p>南部中学校では「南中に来てごしない」活動など積極的に行っているものの、もう少しなんとかなれば、という思いもあります。</p> <p>⇒ (事務局回答)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・令和6年度から、町内全小中学生を対象に、放課後の社会教育活動・過ごし方の一提案として「放課後アートクラブ」を実施しています。会見校区では、いこい荘で年間約20回を予定しており、本年5月現在11名がクラブ員として登録しています。同様に法勝寺校区では、キナルなんぶで実施しており、14名が登録しています。

<p>(4) 学び直しの機会の提供とレファレンスの拡充</p>		<ul style="list-style-type: none"> ・また、公民館教室・クラブとして「なんでも探偵団（詳細は7.の回答参照）」を発足させました。対象は全町民ですが、現在のところ法勝寺中学校 8 名のみの登録となっているため、南部中学生の参加も呼びかけているところです。 <p>○社会教育関連「拡大審議会」とは。</p> <p>⇒（事務局回答）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中長期的な視点による教育施策の実現、各種審議会ほか教育関係機関の連携強化を目的に、公民館運営審議会が主体となって令和 6 年 2 月（約 30 名が参加）に実施しました。 <p>【対象の審議会等】</p> <p>公民館運営審議会、社会教育委員の会、図書館運営協議会、文化財保護審議会、スポーツ推進審議会、隣保館運営審議会、各小中学校長、各小中学校運営協議会、教委事務局・企画課職員など</p> <p>【当日の概要】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・講義「公益性を高める社会教育事業の企画・立案ポイント」 東北学院大学教授（日本生涯教育学会会長）原 義彦先生 ・小グループ協議 講評など <p>○p. 69「(実績)」③の「愛媛大会」は合っているか；「島根」ではなく？もしくは大会名が誤っているのか。</p> <p>⇒（事務局回答）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・委員ご指摘のとおり、中四国社会教育研究大会は「島根大会」であり記載誤りです。 <p>○p. 72、p. 82 では「企業版ふるさと納税」が財源になっているようだが、R5 年度に限ったものか。</p>
---------------------------------	--	---

		<p>⇒（事務局回答）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・委員ご指摘のとおりです。
<p>6. 地域振興協議会と連携しながら、青年団体を核とする町づくりや地域課題の解決に取り組めます。</p> <p>(1) 地域振興協議会との連携促進</p> <p>(2) 高校生サークル及び新☆青年団の活動支援</p> <p>(3) 社会教育主事の養成</p> <p>(4) 社会教育委員のスキルアップと学びの成果の地域還元</p> <p>(5) 子ども会及び青少年育成町民会議の活動充実に資する支援</p>	<p>○高校生サークルや青年団の活動を目にする事が増えてきた。様々な団体と一緒に地域を盛り上げてくれる姿はとても頼もしく嬉しく思う。</p> <p>○二十歳の集いの参加率は近年 70～80%となっています。実行委員会が参画できないことや、事業の目的、内容等を再検討するとのことですが、簡素化だけでなく開催時期なども検討したらよいと思います。</p> <p>○地域おこし協力隊員の雇用 都会から地方へ ⇒良さを伝えてほしい 地域の何を起こすのか？</p>	<p>○高校生サークルから新☆青年団へ活動が継続・発展していくために、線引きを意識しながらの育成をとありますが、どのような方策を考えられていますか。</p> <p>⇒（事務局回答）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・両団体は、さくらまつり、スーパーゴールデンウィーク、二十歳の集い、スマホ教室ほか多くの南部町事業に協力しています。事務局としては、事業継続の方策の一つとして、未来の構成員として期待する町内中学生に対して、積極的に活動への参画を呼びかけているところです。 ・また、これまでどちらかといえば事務局主導で進めてきた事業の企画・立案・実施を含めた団体の運営について、今後は団員の主体性を尊重しつつ自助努力によって人材の育成、活動資金の確保ができ、最終的には町に政策提言ができるような団体へと成長・発展できるよう支援の転換を図っていきます。 <p>○徳島県石井町や北海道三笠市への視察が叶わなかったようであるが、遠方の先進事例視察が実施できなかった場合の対応は。</p> <p>⇒（事務局回答）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全国的に「青年団」が少ないことから、これまで自ずと連携先が限られてきましたが、令和5年度の活動で隣県(島根県)団体とのご縁が生まれつつあります。今後は、合同での事業実施を検討するなど、日常的かつ継続的な交流をめざしていきます。

<p>7. 里地里山に学びながら、郷土の歴史や文化を保存・継承し、町づくりや地域づくり、ふるさとの誇りづくりに活かします。</p> <p>(1) なんぶふれあい館、法勝寺電車の有効活用</p> <p>(2) 文化財保管倉庫の整理</p> <p>(3) 祐生出会いの館発信力の強化</p> <p>(4) 埋蔵文化財包蔵地での試掘調査の実施</p>	<p>○大変非現実的かもしれませんが、殿山古墳など埋もれている町内の遺跡に光をあて、調査を進め、町の文化遺産発掘につながる取り組みができればと思います。(山陰最大級または最大？の古墳なのにもったいない)</p> <p>○「祐生」を売り出す発信はできないか？</p> <p>○自然文化と歴史文化を融合させた特色ある他地域では行われていないような事業はできないか。</p>	<p>○なんぶなんでも探偵団とは？</p> <p>⇒ (事務局回答)</p> <p>・自然や歴史、文化文芸、民俗など郷土(南部町)の魅力について、学んだり発見したりする令和6年度創設の公民館教室・クラブです。月3回の活動を基本として、キナルなんぶ内および屋外で活動しています。本年8月現在、法勝寺中学校の生徒8名が在籍しています。指導者は、なんぶふれあい館職員(町文化財保護審議会委員、自然観察員、元教委文化財担当職員)です。</p>
<p>8. スポーツ環境の整備を図るとともに、スポーツを通じた仲間づくり、健康づくりを推進します。</p> <p>(1) 年少期のスポーツ環境の充実</p> <p>(2) 中学校部活動と総合型地域スポーツクラブの連携強化</p>	<p>○旧会見町側に町民プールがない。会見小学校プールを乳幼児から高齢者まで使える町民プールに。</p> <p>南部中学校プールを中学生以上成人も使用可能で、競技にも対応できる町民プールに。</p>	<p>○「南部町部活動あり方検討委員会」の進捗状況は？</p> <p>⇒ (事務局回答)</p> <p>・「南部町部活動あり方検討委員会」は、部活動の現状や現役中学生との意見交流を踏まえながら協議し、令和6年3月に、令和8年度の「南部町型地域クラブ方式」への完全移行をめざした「南部町部活動の地域移行のあり方に関する提言」をまとめました。(別紙参照)</p> <p>・令和6年度より配置したクラブコーディネーターが各種競技団体とヒアリングを重ねており、指導体制や活動場所、設備等について課題を整理し、調整等に向かっていくところです。</p>

		<p>○中学校の合同部活の現状について、どんな部活が合同なのか。また、地域スポーツクラブとの連携状況や地域移行への状況はどうですか。</p> <p>⇒（事務局回答）</p> <ul style="list-style-type: none">・令和6年度の夏季総体は野球部、ソフトボール部、バレーボール部、女子バスケットボール部が合同部活動で、男子ソフトテニス部と剣道部が拠点校方式で中体連の大会に出場しました。・総合型地域スポーツクラブとの連携や地域移行の状況については上記の通りです。 <p>○(2)中学校部活動の地域クラブへの移行（令和8年度から）について、関心および不安に感じておられる保護者の方が多くおられるのではと思われます。体制がインフラ環境など、南部・法勝寺両校区で持続可能なあり方について、検討中で公表できる内容がないかもしれませんが、分かる範囲でご教示いただけたらと思います。</p> <p>⇒（事務局回答）</p> <ul style="list-style-type: none">・地域移行の状況については上記の通りです。・特に、団体競技はどのようにチームを組むか、チームが組めるのか等不安の声を聞いております。子どもたちが安心して活動できるよう、今年度中に方向性を示し周知する予定です。
--	--	---

9. 人権感覚を磨き、身の回りの差別や不合理に気づく地域学習、行動化につなげる啓発活動の充実に努めます。

- (1) ミカエル・セミナーの充実
- (2) 地域振興区別人権学習の充実
- (3) 町内企業施設研修の支援
- (4) 町人権会議の取り組み充実・強化

○ミカエル・セミナーについては、多面的で多様な人権問題に身を向ける機会を与えてくれるテーマや内容となっています。今後こうした機会を与えてほしい。

○昨年度の就職奨励金の執行率は55.56%となっていますが、実績が上がるように情報提供などを進めてほしい。

○ミカエル・セミナー自体のあり方は、大変評価し得るものと思っております。ただ、参加者の範囲が限定的で、PTAを含めた各団体が、半分義務的に出席という現状（個人的なイメージに過ぎないかもしれませんが）に甘んじているのが残念です。

○ミカエル・セミナーをはじめとして幅広い世代の人権感覚を養うように工夫されているが、人権問題に関わる啓発活動に参加される年代別の実態はどうなっていますか。

⇒（事務局回答）

- ・令和5年度の参加状況は、以下表のとおりです。
- ・60代以上の参加者が多い傾向にありますが、PTA等のご協力により、子育て世代を含む幅広い世代の参加が得られています。

	「ミカエル・セミナー」					コンサート	記念講演	
	第1回	2回	3回	4回	5回			
アンケート回収数	70	59	61	58	53	58	56	
10代	1	0	1	0	0	0	0	
20代	4	3	2	1	7	2	1	
30代	2	1	4	2	2	2	1	
40代	10	9	12	11	15	3	10	
50代	13	8	9	10	9	13	11	
60代	24	23	18	18	13	18	16	
70代	15	14	13	16	6	18	15	
80以上	1	0	1	0	1	0	1	
無記入	0	1	1	0	0	2	1	
参加者数(全)	79	70	76	72	63	70	87	517(人)

○（学校教育（主に小～高）を終えた）「若い人」たちのこうした活動への関心・参画状況が気になる。何か工夫されていることはあるか。

⇒（事務局回答）

- ・若者がどういった人権テーマに関心を寄せているのかについては、未把握です。そのため、今後は当該事業への参加実態を踏まえたうえで、高校生サークルや新☆青年団など若年層への聞き取り等から、テーマ設定や講師選定に努めていきます。

<p>10. これまでの同和教育の歩みをふまえ、地域や家庭と連携しながら保・小中一貫した人権教育の取り組みをすすめます。</p> <p>(1) 南部町 15 年人権プログラム(ミカエルプログラム)の実践と検証</p> <p>(2) 保・小中の保育・授業実践の交流と合同研修の実施</p> <p>(3) 隣保館と連携した地区学習会の充実</p>	<p>○宮前・西伯両隣保館の活動はそれぞれ個別の取組をされていると思いますが、少子高齢化が進む状況下で両隣保館の連携、協働した取組みがあるとよいと思います。</p>	<p>○高齢者独居世帯は町内に多いのか。</p> <p>⇒ (事務局回答)</p> <p>・令和6年3月31日現在、町内の65歳以上の独居高齢者世帯は614世帯(総世帯数3,908世帯の内数)であり、全体の約15.7%です。</p> <p>○p.108の「実績」にある高齢者独居世帯への配食を行ったとあるが、人権・社会教育課の所掌事務として負担はないだろうか(町長部局の福祉部門の所掌のような・・・)</p> <p>⇒ (事務局回答)</p> <p>・当該事業の主目的は生活の自立支援ではなく、地域住民の方々と隣保館との交流促進、生活課題の把握等にあり、実施可能な回数を無理なく継続しているところです。</p>
<p>11. 多岐にわたる教育課題の解決に資する教育委員会事務局、園・小中学校及び社会教育施設等の体制(支援態勢)を整備し、教育行政推進体制の充実を図ります。</p> <p>(1) 組織の充実・強化</p> <p>(2) 主要な教育課題への取り組み</p>	<p>○不登校</p> <p>学校教育の在り方改革を進める</p> <p>学校に行かなくてもできる学校教育の仕組みを考える</p>	<p>○社会教育と学校教育の連携・融合が進められていますが、学校の教職員に社会教育への理解は欠かせないと考えます。教職員が、CSを含めて社会教育についての学びを進める方策を考えられていますか。</p> <p>⇒ (事務局回答)</p> <p>・自然体験、他地域・他文化との交流体験など、家庭の経済格差が体験格差に直結しないためにも、町内児童・生徒の参加事業では教職員の協力を含めて充実した体制での事業実施を検討するとともに、実施後には教育的意義を教職員参加のもと検証する等、社会教育と学校教育の有機的連携を図っていきます。</p> <p>・町内小中学校の教職員に対して、社会教育主事講習の受講案内</p>

		<p>はもとより、各種社会教育事業への参画を呼びかけています。</p> <ul style="list-style-type: none">・令和4・5年度で、全ての学校事務職員が「鳥取県地域コーディネーター養成講座」を受講し、認定を得ました。 <p>○教育委員会の事案ではないかもしれませんが、保育園統合により、現さくら保育園、つくし保育園の今後の利用方針についてビジョン等がありましたら、お話しできる範囲で構いませんので、ご教示いただけたらと思います。特にさくら保育園については、会見地区における追加的な(?)文化・教育拠点など展望はおありでしょうか?</p> <p>⇒ (事務局回答)</p> <ul style="list-style-type: none">・現在予定はありません。
--	--	--